

地学フォト巡検記

竜王山の花崗岩トア

吉田 史郎¹⁾

フォトハイク

自然写真ブームを支える一つに、フォトハイクとかフォトウォークとよぶイベントがある。

カメラをぶらさげて、ハイキングやウォーキングを楽しみながら、気ままに風景や草花を撮影することで、野鳥や植物の観察会に似てはいるが、専門知識も案内役の専門家もいないし、カメラさえあれば一人ででも仲間同士でも出かけることができ、おまけに健康維持にも気分転換にも仲間同士の交流にもマッチするので、中高年を中心にチョットしたブームになっており、最近この種のイベントへの参加を呼びかけるパンフレットを、駅やカメラ店などでみかけるようになった。

フォトハイクでは、その日の撮影ポイントは一応決まってはいるが、なにをどう切り撮ろうとその人の感性であり、実際、ハイク後の合評会で目にする作品は千差万別で、なるほどこんな撮り方もあったのかとか、人はみかけによらない見方をするものなのか、感心することも少なくない。

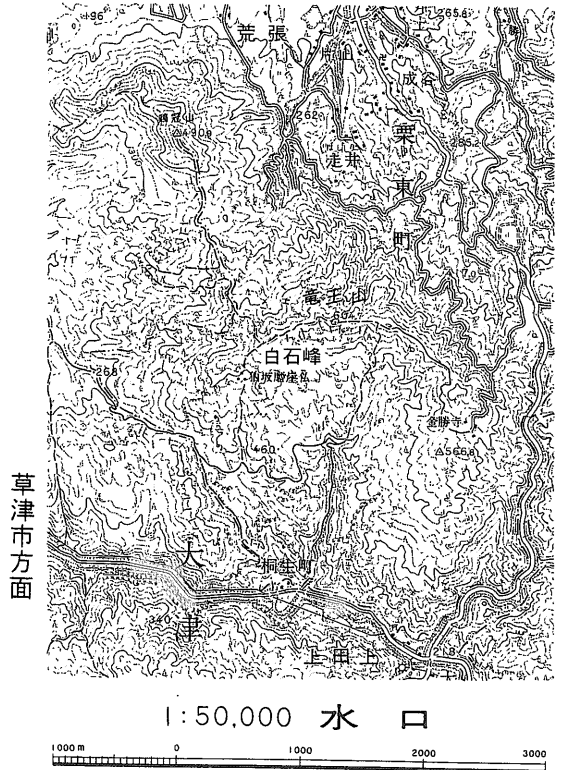
さて前置きが長くなったが、今回は春五月のうらかな一日、気ままにフォトハイクを楽しみながらカメラにおさめた花崗岩の造形美と仏教史跡の一端を紹介しよう。

湖南アルプス

湖都大津の東方に湖南アルプスと呼ぶ景勝地がある。竜王山を中心とする山地(第1図)と、この南西5kmの田上山(太神山)を中心とする山地をあわせてこう呼ぶことが多いようで、実際、二つの山地は地質も地形も似たもの同士である。

湖南アルプスは田上花崗岩という、今から約8,000万年前の白亜紀後期にマグマから冷えて固

まった花崗岩からできている。この花崗岩は表面が風化している上、万葉集の時代から造都のたびに木材が切り出されたため、ゴツゴツとした花崗岩が尾根筋や山肌にもみ出しになった悪地形(パッドランド地形)を作っている。高さが400-600mと低いのに「アルプス」と呼ばれているのも、この特異な景観に由来しているのだと思う。



第1図 竜王山と鶏冠山の所在地(国土地理院発行5万分の1地形図「水口」の一部を使用)。

1) 産総研 関西地質調査連携研究体

キーワード: 滋賀県, 湖南アルプス, 田上花崗岩, トア, 白亜紀

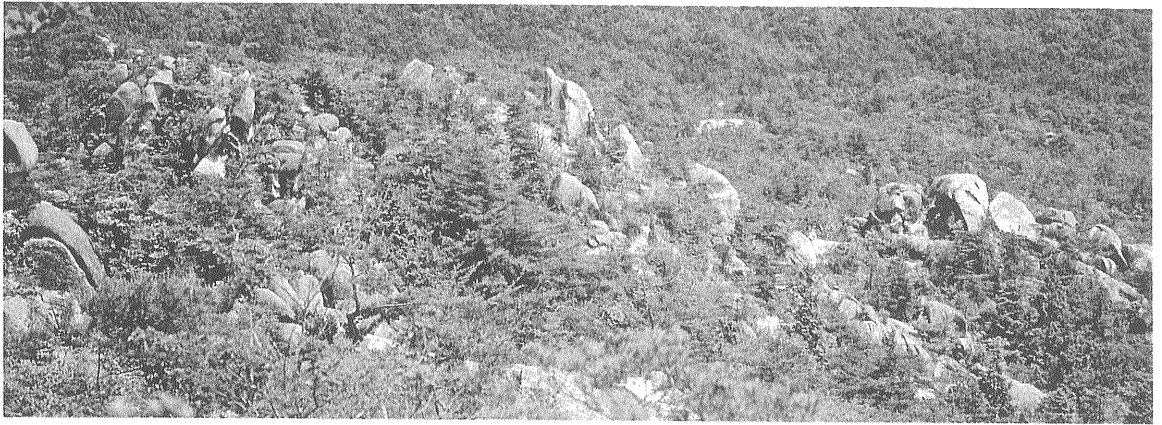


写真1 白石峰から竜王山への縦走路から望む花崗岩トア群。

トア-花崗岩の造形美

竜王山周辺の金勝^{こんせつ}ハイキングコースをフォトハイクした際、コース沿いにゴツゴツした花崗岩の奇岩・怪石・巨石が乱雑に並び、中には美しい造形を作っているのに目をうばわれた。造形のきれいなものをカメラにおさめながら、昔、5万「亀山」図幅で鈴鹿層群という2,000万年前の堆積岩を調査したときにも同じ景観に出会い、いったい何と呼ぶのか調べてみたが、結局分からずじまいだった記憶がよみがえった。大阪に帰ってもう一度調べなおし、やっと分かった。どうやらトア(tor)と言うらしい。

トアについての地形学的・地質学的な解説は、口絵で紹介しておいた。要するに岩石や岩盤中の節理の多いところが砂や泥になって削られ、節理の少ないところが岩塊のまま残り、トアができると言うことだ。なお節理とは割れ目の一種で、割れ目の両側にズレがないか、あってもわずかなものと言う。ズレの大きいものが断層である。

花崗岩のトアのうち、形に特徴があるものは、天狗岩、耳岩と言った愛称がつけられている。口絵で紹介したトアは、竜王山の山頂北側の小ピークにみられるもので、特に愛称はないようだが、今回みたトアの中では造形美ではベストであり、生えている松の木や背景の近江富士^{みかなやま}(三上山)とのバランスもなかなか良い。もう一つ、白石峰から竜王山へ

の縦走路から望む山腹のトアを紹介する(写真1)。

山岳密教文化の地

竜王山の南西にある田上山が鉱物採集地であることは良く知られているが、湖南アルプスは天台宗ゆかりの山岳密教文化が栄えた地でもある。

確かに山中を歩くと、白い山肌や寺院のたたずまいは比叡山延暦寺に似ている。比叡山も、田上花崗岩の親戚である比叡花崗岩からできているから、ここと雰囲気似るのも当然かもしれない。花崗岩のトアが林立する景観も、荒行を行う道場としてふさわしかっただろう。その中心が竜王山そばの古刹金勝寺^{こんしょうじ}である(写真2)。しかしこの寺も、今では人里離れた枯れさびた雰囲気しかない。

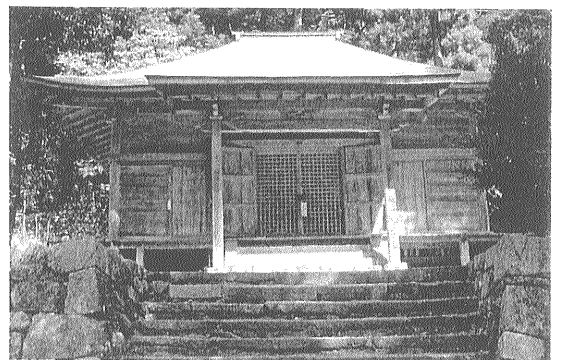


写真2 金勝寺本堂。

フォトハイイクのすすめ

金勝ハイキングコースは、都会に近く、ふもとまでのアクセスの便も良く、地形も起伏に富んで見晴らしも良い上、花崗岩トアの造形美や密教文化の史跡など、写真の被写体にはことかかない。

ただ山中ではすべて徒歩となるので、足元はしっかりと、機材はなるべく軽くしたい。風景写真ではブレは大敵なので、三脚は軽いものでよいかから持参したいが、最近ではブレ防止機能を持つレンズもあるから、その場合は手持ちでも良いだろう。

レンズは28-200mmの高倍率ズーム一本あれば十分だが、なければ標準ズームと中望遠ズームを用意すればよい。ただコース上にあるトアを撮るには、

広角ズームがあった方がベターだ。

バスはJR草津駅から約30分で上桐生下車、^{けい}鶏冠山^{かんざん}をめぐって縦走路沿いに天狗岩や耳岩を越え、白石峰から国見岩と狛坂磨崖仏を経て、さかさ観音を通り、ふたたび上桐生バス停にもどる(あるいはこの逆の)コースが一般的である。口絵のトアをみるには白石峰を東に行く。季節はツツジ咲く4月下旬から5月初めがさわやかで、おすすめである。

YOSHIDA Fumio (2001): Granite tor at Mt. Ryu-o-zan, Shiga Prefecture -Photoessay on geoscience-

<受付: 2000年5月16日>